

JAMA・JAPIA

EDIFACT
CONTRL 導入ガイドライン
V2.01
JAMAEIE106

2010年04月01日

JAMA

Japan Automobile Manufacturers Association, Inc.

一般社団法人 日本自動車工業会
電子情報委員会 ビジネス システム部会

JAPIA

Japan Auto Parts Industries Association

社団法人 日本自動車部品工業会
電子情報化委員会 EDI 部会

このガイドラインは、一般社団法人 日本自動車工業会（JAMA）・電子情報委員会ビジネス システム部会において、社団法人 日本自動車部品工業会（JAPIA）・電子情報化委員会 EDI 部会と協同して、日本自動車産業界における部品発注業務の EDI 標準化を目的に、UN/CEFACT が定めた EDI 世界標準である UN/EDIFACT の ‘CONTRL’ を利用した「EDIFACT メッセージの受信状況」情報の標準を定めたものである。

業務プロセスと CONTRL の位置付けについては、第 3 章モデリングを参照されたい。

当バージョンは、前バージョンのガイドライン発行後 5 年が経過したため、以下の点を考慮して改訂したものである。

1. UN/EDIFACT の最新国連バージョン D.07A の採用
2. 3 極（AIAG、ODETTE、JAMA・JAPIA）での合意事項の反映
3. 国内使用実績に即した内容の見直し

なお、本書を利用する場合には、「JAMA・JAPIA 取引情報標準書（本編、別冊）」を参照されることを推奨する。また、本書を利用して各社におけるメッセージ仕様書を作成する場合には、「JAMA・JAPIA EDIFACT 仕様書作成ガイドライン」を参照されたい。

<目次>

前書き	… 1
1. はじめに	… 3
2. CONTRL メッセージの概要	… 4
2.1 CONTRL でカバーされるビジネス機能	… 4
2.2 メッセージに必要な情報	… 5
2.3 JAMA・JAPIA 遵守事項	… 5
3. モデリング	… 6
4. メッセージ記述	… 7
4.1 セグメント表	… 7
4.1.1 セグメント表の見方	… 7
4.1.2 CONTRL セグメント表	… 8
4.1.3 ビジネス機能に対応した使用セグメント	… 8
4.2 JAMA・JAPIA セグメント概説	… 9
4.3 JAMA・JAPIA メッセージ情報	…10
4.4 セグメント詳細記述	…12
4.4.1 セグメント詳細記述の見方	…12
4.4.2 セグメント・グループ記述の見方	…12
4.4.3 データ値タイプ	…13
4.4.4 文字セット	…13
4.4.5 日本語（2バイト文字）表記	…13
4.4.6 セグメント内でのデータの分離	…13
4.4.7 CONTRL セグメント詳細記述使用例	…14
4.4.8 CONTRL セグメント詳細記述	…15
5. 記述例	…23
6. 交換用サービス・セグメント	…24
6.1 サービス・セグメント概要	…25
6.2 UNA	…25
7. e0085 シンタックス・エラー・コード表	…26

1. はじめに

UN/EDIFACT とは、United Nations / Electronic Data Interchange For Administration, Commerce and Transport の略であり、全世界規模で一貫性のある EDI 標準を提供するため、国連で策定されたものである。

従って、UN/EDIFACT は、単一の世界標準として、自動車業界のみならず、すべての業界で利用できるように作られている。

このガイドラインにおいて「EDIFACT」という言葉は、自動車業界で利用し易いように、必要な部分を UN/EDIFACT から取り出し策定した業界標準メッセージを意味することにする。

ユーザーが EDIFACT を導入するためには、文法、構造、規約を理解する必要がある。このガイドラインは、その理解を支援するためのものであり、つぎの狙いがある。

- ・利用者の固有フォーマットから EDIFACT フォーマットへの移行を容易にする。
- ・今後の EDI 導入において、EDIFACT を利用した JAMA・JAPIA 標準の利用を促進する。

EDIFACT を使用する利点は、

- ・全世界とデータ交換ができる。
- ・全業種とデータ交換ができる。
- ・業界内の全企業とデータ交換ができる。
- ・企業内のデータ交換にも利用できる。
- ・新規取引先とのデータ交換が容易に実現できる。

これらの利点は、取引企業双方が、このガイドラインのような業界規約を利用する場合に意味がある。特に、ある企業が複数の企業と取引を行う場合に、この標準規約を基準とした EDI フォーマットを企業間で合意することが重要である。

EDIFACT は企業が独自で定めているメッセージについても、記述できるような柔軟性はあるが、標準化の観点では独自項目の見直しが前提となる。

本書は、交換先から送信されるメッセージを検査して、誤りがあればその誤りの内容を交換先へ通知し、誤りが無ければその旨交換先へ通知する CONTRL メッセージの内容を規定する。

この導入ガイドラインは、3つの主要なセクションから構成されている。

- ・CONTRL（応答情報）に関して前提となる知識・要件の記述。
- ・関連するビジネス機能モデルの記述。
- ・CONTRL のテクニカルな記述方法の解説。

2. CONTRL メッセージの概要

2.1 CONTRL でカバーされるビジネス機能

このメッセージは、Syntax version 3 で規定されたサービス・メッセージであり、通達証明とシンタックス・チェック情報の機能がある。

(1) 通達証明

応答の対象となる EDIFACT メッセージ（以下、対象メッセージ と記述する）の受信者は、対象メッセージを受信した証明として CONTRL メッセージを発信する。

対象メッセージが CONTRL を要求する場合は、UNB.0031 (Acknowledgement Request) に”1”をセットすることによりなされる。

(2) シンタックス・チェック情報

対象メッセージの受信者は、対象メッセージの文法のチェックを行い、その結果を発信者へ通知することに使用する。チェックの内容は、ISO9735 Syntax rules (Syntax version 3) に基づく文法等である。

登場する企業の関係は以下の通りである。

- ・ CONTRL メッセージ発信者：応答の対象となる対象メッセージを受信した企業（+事業所）。
- ・ CONTRL メッセージ受信者：対象メッセージを発信した企業（+事業所）。

CONTRL メッセージの受信者は以下のことが可能となる。

- ・ 対象メッセージが、受信者に伝わったか確認できる。
- ・ 文法が間違っていた場合に、対象メッセージの受信者に対し、再度 EDIFACT メッセージを発信できる。

また、CONTRL メッセージの発信者は以下のことが可能となる。

- ・ 対象メッセージの発信者に対象メッセージを受け取った旨を知らせ、文法的に間違っていた場合は、再受信できる。

CONTRL メッセージには以下の禁止事項がある。

- ・ 受信した CONTRL メッセージに対する CONTRL メッセージを発信してはならない。
- ・ CONTRL メッセージには、アプリケーションのエラー内容を記述してはならない。

CONTRL メッセージは、対象メッセージ導入時での、導入 2 社間におけるシステムテストに使用すると有効である。

2.2 メッセージに必要な情報

1つの **CONTRL** メッセージ(**UNH-UNT**)には、一つの対象メッセージに関する応答情報を設定する。この中には、ヘッダーと明細領域が存在する。

- ヘッダー情報
 - CONTRL メッセージ発信日
 - 対象メッセージの特定情報
 - CONTRL メッセージ発信者 (対象メッセージの受信者)
 - CONTRL メッセージ受信者 (対象メッセージの発信者)
 - 受信した旨の通知フラグ
- 明細情報
 - 対象メッセージのエラーの有無の通知
 - エラーが有る場合、対象メッセージの応答対象となるセグメント番号とそのエラーの内容

通達確認のための **CONTRL** は、ヘッダー情報のみを伝送する。

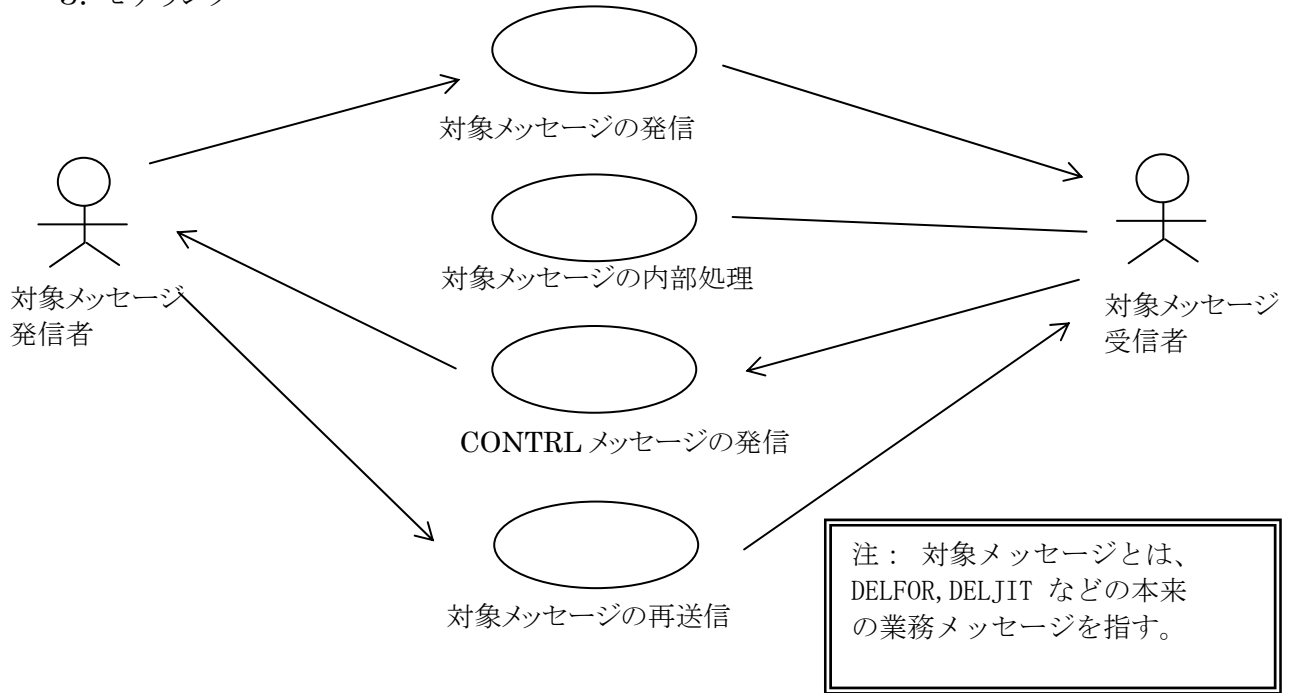
シンタックス・チェック情報のための **CONTRL** は、ヘッダー情報+明細情報を伝送する。

2.3 JAMA・JAPIA 遵守事項

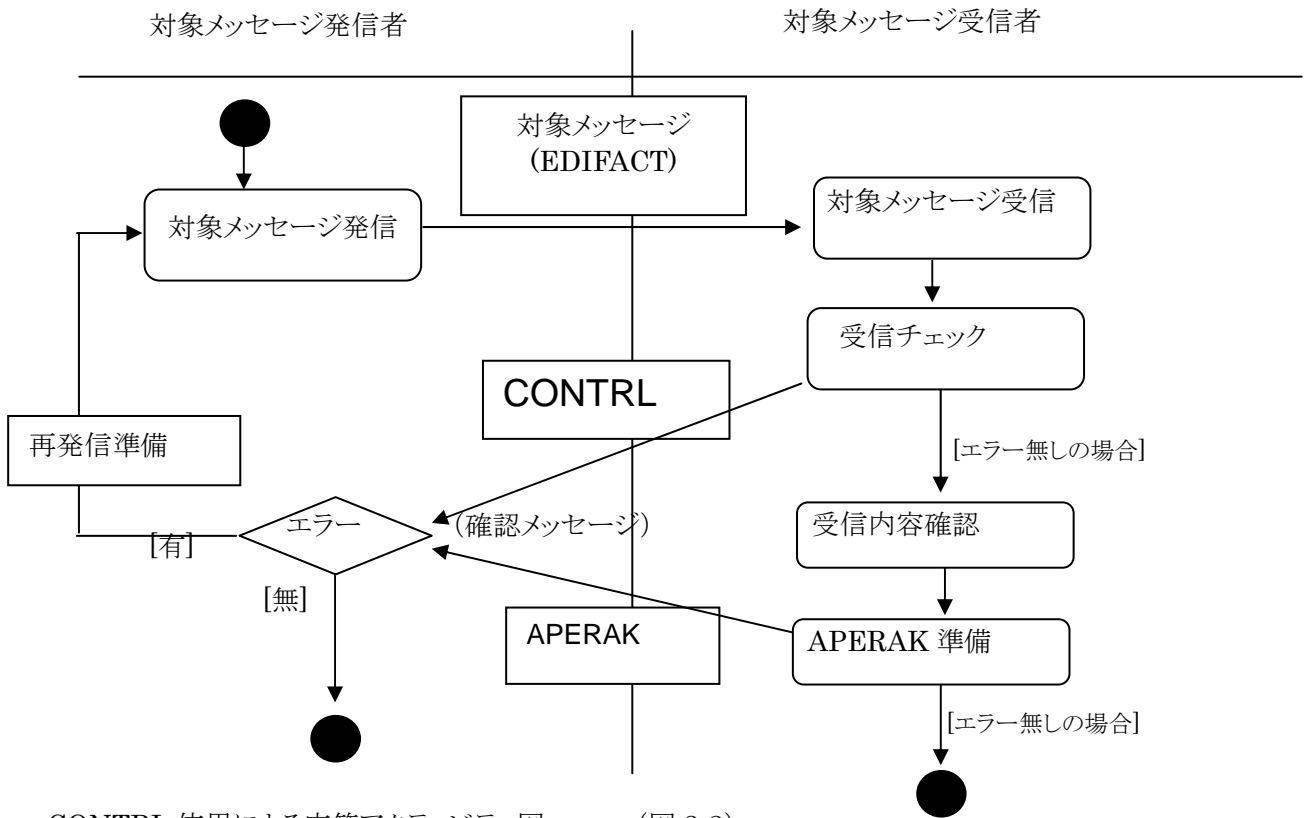
ここでは、**JAMA・JAPIA** (日本自動車業界) としての遵守事項を記述する。

- **CONTRL** メッセージを交換するかどうか、どんな場合に交換するか、については、交換する 2 社間において、事前に基本契約がなされていることが前提である。
- **CONTRL** を交換する前に、データ交換する 2 社間において、適用する国際規約・標準および社内システムの能力・制約について合意しておく必要がある。
- 当ガイドラインは、メッセージ交換に必要な 2 社間合意において、使用する条件を取り決める際の標準項目をガイドするものである。最終的な決定は、利用する 2 社の責任である。
- 1 つの指示単位 (**UNH-UNT**) の中では、1 つの対象メッセージ (**UNH-UNT**) に対する応答あるいは通達の情報を入れることとする。

3. モデリング



CONTRL 使用による応答ユースケース図 (図 3-1)



CONTRL 使用による応答アクティビティ図 (図 3-2)

4. メッセージ記述

4.1 セグメント表

セグメントとは、タグと呼ばれるセグメントを識別するための3文字の英大文字で始まり、セグメント終了識別子（デフォルトはアポストロフィ）で終了する、一連のメッセージを言う。

セグメント・グループとは、機能的に関連のあるセグメントおよび付加的なセグメント・グループから構成されるメッセージ群を言う。

セグメント表とは、EDIFACT メッセージのセグメント構造を記述した表である。セグメントおよびセグメント・グループを、メッセージのポジション番号順に記述し、情報種単位の構造を示す。

4.1.1 セグメント表の見方

セグメント表において、セグメントはメッセージのポジション番号順に記述している。

セグメント・グループの繰り返しは、上位の（外部）セグメント・グループに含まれることがある。内部グループは、外部グループの終了する前か同時に終了する。内部グループで与えられる情報は、外部グループと密接な関連を持つ。

外部グループの使用は、そこに含まれるセグメントまたは内部グループがすべて使われない時「使用しない」ことになる。1つでも「必須」があれば、必須となる。

セグメント表の左欄(Usage)には、JAMA・JAPIA としての使用要件が記述されている。

- ・M :JAMA・JAPIA 必須項目で国連で M (Mandatory) としているもの。
- ・R :JAMA・JAPIA として必須項目とする。
- ・O :JAMA・JAPIA として任意項目とする。
- ・X :JAMA・JAPIA として使用することを推奨しない。

4.1.2 CONTRL セグメント表

(表 4.1-1)

JAMA Usage	Pos. No.	Seg. TAG	Name	UN Usage	Repeat
M	0010	UNH	Message header	M	1
M	0020	UCI	Interchange Response	M	1
O	0030	SG1	Segment Group 1	C	999999
M	0040	UCM	Message Response	M	1
O	0050	SG2	Segment Group 2	C	999
M	0060	UCS	Segment Error Indication	M	1
O	0070	UCD	Data element error indication	C	99
X	0080	SG3	Segment Group 3	C	999999
X	0090	UCF	Functional group response	M	1
X	0100	SG4	Segment Group 4	C	999999
X	0110	UCM	Message Response	M	1
X	0120	SG5	Segment Group 5	C	999
X	0130	UCS	Segment Error Indication	M	1
X	0140	UCD	Data element error indication	C	99
M	0150	UNT	Message trailer	M	1

4.1.3 ビジネス機能に対応した使用セグメント

- (1) 通達証明： UNH－UCI－UNT のみを使用。
- (2) シンタックス・チェック情報：上記セグメント表に従って、セグメントを使用。

4.2 JAMA・JAPIA セグメント概説

UNB メッセージ交換ヘッダー (Interchange Header) 6章参照

複数のメッセージ (UNH・UNT) をまとめてユニークに識別し、送信するためのサービス・セグメント。

UNH メッセージ・ヘッダー (Message Header)

メッセージの開始と、メッセージをユニークに識別するためのサービス・セグメント。

「応答情報」を送信するためのメッセージ分類コードは‘CONTRL’である。

UCI メッセージの開始 (Interchange Response)

対象メッセージの識別とアクション・コードを設定するセグメント。対象メッセージの UNB に対応する。

SG1 セグメント・グループ-1 : UMC-SG2

対象メッセージの情報とエラーの有無を設定するセグメント・グループ。

UCM メッセージ応答 (Message Response)

対象メッセージの UNH の情報とアクション・コードを設定するセグメント。

SG2 セグメント・グループ-2 : UCS-UCD

エラーの詳細情報を設定するセグメント・グループ

UCS セグメント・エラー識別 (Segment Error Indication)

対象メッセージの中のエラーのあるセグメントの位置 (最初のセグメントから数えて何番目か) を設定するセグメント。

UCD データ・エレメント・エラー識別 (Data Element Error Indication)

エラー・コードとエレメントの位置番号を設定するセグメント。

UNT メッセージ・トレーラー (Message Trailer)

メッセージの終わりを示すサービス・セグメント。メッセージ内の合計セグメント数およびコントロール用の参照番号を示す。

UNZ メッセージ交換トレーラー (Interchange Trailer) 6章参照

UNB に対応し、メッセージ交換の終了を表わすサービス・セグメント。

4.3 JAMA・JAPIA メッセージ情報

ここでは、JAMA・JAPIA 推奨の CONTRL の使用方法を記述する。

0010 UNH 当セグメントはサービス・セグメントであり、EDIFACT 上のメッセージ・タイプの識別を示す。

e0062: 当メッセージを特定する為に、送信者がユニークに設定するメッセージ参照番号。

S009 のデータ・エレメントは以下の値をとることとする。

e0065: 'CONTRL'

e0052: 'D'

e0054: '3'

e0051: 'UN'

e0057: 'GD0000'

0020 UCI 対象メッセージの識別とアクション・コードを設定する。

e0020: 対象メッセージの UNB.e0020「交換参照番号」

S002.e0004: 対象メッセージの UNB.S002.e0004「送信者識別」

e0007: 対象メッセージの UNB.S002.e0007「送信者識別修飾子」

S003.e0010: 対象メッセージの UNB.S003.e0010「受信者識別」

e0007: 対象メッセージの UNB.S003.e0007「受信者識別修飾子」

e0083: アクション・コード

Code value	Code name	Common usage
7	This level acknowledged, next lower level acknowledged if not explicitly rejected.	対象メッセージを受け取ったことを示す。

0030 SG1 対象メッセージの情報とエラーの有無を設定するセグメント・グループ。

0040 UCM 対象メッセージの情報とアクション・コードを設定する。

e0062: 対象メッセージの UNH.0062「メッセージ番号」

S009.e0065: 対象メッセージの UNH.S009.e0065「メッセージ・タイプ」

e0052: 対象メッセージの UNH.S009.e0052「メッセージ・バージョン」

e0054: 対象メッセージの UNH.S009.e0054「メッセージ・リリース」

e0051: 対象メッセージの UNH.S009.e0051「メッセージ・管理機関」

e0057: 対象メッセージの UNH.S009.e0057「業界指定コード」

e0083: アクション・コード

Code value	Code name	Common usage
4	This level and all lower levels rejected	対象メッセージに文法エラーあり。エラーの詳細はSG2に記述する。
8	Interchange received	対象メッセージに文法エラーなし。この場合SG2は使用しない。

0050 SG2 エラーの詳細情報(セグメント番号、エレメント番号、エラー・コード)を設定する。

0060 UCS エラーのあるセグメントの位置を設定する。

e0096: 対象メッセージのセグメントの位置(最初のセグメントから数えて何番目か)を設定する。

e0085: エラー・コード(7章 e0085 シンタックス・エラー・コード表参照)

0070 UCD エラー・コードとデータ・エレメントの位置番号を設定する。

e0085: エラー・コード(7章 e0085 シンタックス・エラー・コード表参照)

S011.e0098: セグメント内の独立または複合データ・エレメントの位置を設定する。

e0104:複合データ・エレメント内のコンポーネント・データ・エレメントの位置を設定する。

0150 UNT メッセージ・トレーラー

e0074:UNH-UNT 間のセグメント数(UNH,UNT も含む)

e0062:UNH での e0062 と同じもの

4.4 セグメント詳細記述

セグメント詳細記述では、セグメント記述およびセグメント・グループ記述が、出現順（ポジション番号順）に記述される。

4.4.1 セグメント詳細記述の見方

Segment : セグメント・タグ。3文字の英大文字。

Position : セグメントの出現順番号。0010 より 10 番ごとに打たれる。

Group : 所属するセグメント・グループ。

Level : セグメント・グループの階層度。

Usage : 必須(Mandatory)か任意(Conditional)かを示す。

Purpose : セグメントの使用目的。

Comments : コメント。

Examples : 使用例を記述

<Data Elements 内の項目>

Usage : 国連で M (必須) としているものは JAMA・JAPIA として M (必須項目) とする。
国連で C (任意) としているものについて、JAMA・JAPIA としての取り扱いを以下のように定める。

R : JAMA・JAPIA として必須項目とする。

O : JAMA・JAPIA として任意項目とする。

X : JAMA・JAPIA として使用することを推奨しない。

D-Elm : データエレメント

C-Elm : 構成エレメント

Name : データエレメント、構成エレメントの名称

Attribute : 国連で定めた必須 (M) / 任意 (C) と最大桁数

4.4.2 セグメント・グループ記述の見方

Segment : セグメント・グループ名。

Position : セグメントの出現順番号。0010 より 10 番ごとに打たれる。

Usage : 必須(Mandatory)か任意(Conditional)かを示す。

Purpose : セグメント・グループの使用目的。

Comments : コメント。

<Segments and Segment groups 内の項目>

Usage : 国連で M (必須) としているものは JAMA・JAPIA として M (必須項目) とする。
国連で C (任意) としているものについて、JAMA・JAPIA としての取り扱いを以下のように定める。

R : JAMA・JAPIA として必須項目とする。

O : JAMA・JAPIA として任意項目とする。

X : JAMA・JAPIA として使用することを推奨しない。

Segment : セグメント・タグ及びセグメント・グループ名

Name : セグメント名

Attribute : 国連で定めた必須 (M) / 任意 (C) と最大桁数

4.4.3 データ値タイプ

下表は、EDIFACTにおけるデータ値のタイプを表わす。
 数値データタイプにおいて、小数点は明示的に送る。小数点と負記号はデータ長に含めない。
 また、正記号(+)はデータの分離記号として使われるため使用しない(符号なし数は正の数とみなす)。

(表 4.4-1)

表現	説明
a	英字
n	数字
an	英数字
a35	35 文字の英字 (固定長)
n35	35 桁の数字 (固定長)
an35	35 文字の英数字 (固定長)
a..35	最大 35 文字の英字
n..35	最大 35 桁の数字
an..35	最大 35 文字の英数字

4.4.4 文字セット

ISO 標準では、EDIFACT メッセージ内で使用できる文字セットとして UNOA-UNOK, UNOX, UNOY を規定している。UN/ECE レベル A(UNOA)では、英大文字、数字および特定の特殊文字の使用を許している。文字セットはサービス・セグメント UNB で指定する。これは、自動車業界の業務要件に適合しており、我々が推奨している英語の利用要件をサポートしている。

4.4.5 日本語 (2 バイト文字) 表記

EDIFACT のデータとしての日本語 (2 バイト文字) 表記は推奨しない。コードによる記述や、英大文字による英語またはローマ字での記述を推奨する。

日本語表記が必要な場合は、文字セットを UNOX とし、属性が英数字として表現されている場所に 2 バイト 1 文字として記述する。

半角カタカナの使用は推奨しない。

4.4.6 セグメント内でのデータの分離

下表は国連で定められている分離記号を示している。これらの記号は、UNA (サービス・ストリング・アドバイス) によってユーザーが自由に定義できるが、以下の記号 (デフォルト) の使用を推奨する。

(表 4.4-2)

文字	記号	使用法
アポストロフィ	'	セグメントの終了
正 (プラス) 符号	+	セグメント・タグとデータ・エレメントの分離
コロン	:	構成データ・エレメントの分離
疑問符	?	分離記号を本来の意味として使う場合の識別

4.4.7 CONTRLセグメント詳細記述使用例

セグメント・タグ セグメント名

Segment: **UCM** Message Response **M** (1/1)
Position: 0040
Group: Segment Group 1 JAMA・JAPIA の Usage
Level: 1
Usage: Mandatory Occurs n/m
n:出現回数
m:Max Use
Purpose: To identify a message in the subject interchange, and to indicate that message's acknowledgement or rejection (action taken), and to identify any error related to the UNH and UNT segments.
Comments: 対象メッセージの情報とアクション・コード
Examples: UCM+MSG REF+DESADV:D:07A:UN:JAMA01+8'

国連規定の Usage
国連規定の属性

Data Elements 使用例 国連規定の Usage

Usage	D-Elm	C-Elm	Name	Attributes
M	0062		MESSAGE REFERENCE NUMBER 対象メッセージの「メッセージ番号」	M an..14
M	S009		MESSAGE IDENTIFIER	M
M		0065	Message type 対象メッセージの「メッセージ・タイプ」	M an..6
M		0052	Message version number 対象メッセージの「メッセージ・バージョン」	M an..3
M		0054	Message release number 対象メッセージの「メッセージ・リリース」	M an..3
M		0051	Controlling agency 対象メッセージの「メッセージ・管理機関」	M an..2
O		0057	Association assigned code 対象メッセージの「業界指定コード」	M an..3
M	0083		ACTION, CODED	M an..3
		4	This level and all lower levels rejected 対象メッセージにエラーあり。エラーの詳細はSG2に記述する。	
		8	Interchange received 対象メッセージにエラーなし。	
X	0085		SYNTAX ERROR, CODED	C an..3
X	0013		SERVICE SEGMENT TAG, CODED	C a3
X	S011		DATA ELEMENT IDENTIFICATION	C
X		0098	Erroneous data element position in segment	M n..3
X		0104	Erroneous component data element position	C n..3

JAMA・JAPIA の Usage
コード値
エレメント・データの説明
コードの説明

4.4.8 CONTRLセグメント詳細記述

Segment: **UNH** Message header M (1/1)
Position: 0010
Group:
Level: 0
Usage: Mandatory
Purpose: To head, identify and specify a message.
Comments: 当セグメントはサービス・セグメントであり、EDIFACT上のメッセージ・タイプの識別を示す。
Examples: UNH+XXX+CONTRL:D:3:UN:GD0000'

Data Elements

Usage	D-Elm	C-Elm	Name	Attributes
M	0062		MESSAGE REFERENCE NUMBER メッセージ参照番号	M an..14
M	S009		MESSAGE IDENTIFIER	M
M		0065	Message type identifier CONTRL Syntax and service report message	M an..6
M		0052	Message type version number D Draft version/UN/EDIFACT Directory	M an..3
M		0054	Message type release number 3 Release 3 注)	M an..3
M		0051	Controlling agency UN UN/ECE/TRADE/WP.4	M an..2
R		0057	Association assigned code GD0000	C an..6
X	0068		COMMON ACCESS REFERENCE	C an..35
X	S010		STATUS OF THE TRANSFER	C
X		0070	Sequence message transfer number	M n..2
X		0073	First/last sequence message transfer indication	C a1

注) : UNH.S009.e0054 に設定する内容は、CONTRLメッセージに限り、メッセージ・リリース・バージョン番号である。なお、他のメッセージでは、メッセージ・リリース ('07A' 等) を設定する。

Segment: **UCI** Interchange Response M (1/1)
 Position: 0020
 Group:
 Level: 1
 Usage: Mandatory
 Purpose: To identify the subject interchange, to indicate interchange receipt, to indicate acknowledgement or rejection (action taken) of the UNA, UNB and UNZ segments, and to identify any error related to these segments. Depending on the action code, it may also indicate the action taken on the functional groups and messages within that interchange.
 Comments: 対象メッセージの識別とアクション・コードを設定する。対象メッセージの UNBに対応する。
 Examples: UCI+REF01+SENDER ID:QLF+RECIPIENT ID:QLF+7'

Data Elements

Usage	D-Elm	C-Elm	Name	Attributes
M	0020		INTERCHANGE CONTROL REFERENCE 対象メッセージのUNB.e0020「交換参照番号」	M an..14
M	S002		INTERCHANGE SENDER	M
M		0004	Sender identification 対象メッセージのUNB.S002.e0004「送信者識別」	M an..35
O		0007	Partner identification code qualifier 対象メッセージのUNB.S002.e0007「送信者識別修飾子」	C an..4
X		0008	Address for reverse routing	C an..14
M	S003		INTERCHANGE RECIPIENT	M
M		0010	Recipient identification 対象メッセージのUNB.S003.e0010「受信者識別」	M an..35
O		0007	Partner identification code qualifier 対象メッセージのUNB.S003.e0007「受信者識別修飾子」	C an..4
X		0014	Routing address	C an..14
M	0083		ACTION, CODED 7 This level acknowledged, next lower level acknowledged if not explicitly rejected. 対象メッセージを受け取ったことを示す。	M an..3
X	0085		SYNTAX ERROR, CODED	C an..3
X	0013		SERVICE SEGMENT TAG, CODED	C a3
X	S011		DATA ELEMENT IDENTIFICATION	C
X		0098	Erroneous data element position in segment	M n..3
X		0104	Erroneous component data element position	C n..3

Segment: **Segment Group 1** O (1/999999)
Position: 0030
Usage: Conditional
Purpose:
Comments: 対象メッセージの情報とエラーの有無を設定するセグメント・グループ
Notes:

Segments and Segment Groups

Usage	Segment	Name	Attributes
M	UCM	Message Response	M 1
O	Segment Group 2		C 999

Segment: **UCM** Message Response M (1/1)
 Position: 0040
 Group: Segment Group 1
 Level: 1
 Usage: Mandatory
 Purpose: To identify a message in the subject interchange, and to indicate that message's acknowledgement or rejection (action taken), and to identify any error related to the UNH and UNT segments.
 Comments: 対象メッセージのUNHの情報とアクション・コードを設定する。
 Examples: UCM+MSG REF+DESADV:D:07A:UN:GD0000+8'

Data Elements

Usage	D-Elm	C-Elm	Name	Attributes
M	0062		MESSAGE REFERENCE NUMBER 対象メッセージのUNH.e0062「メッセージ番号」	M an..14
M	S009		MESSAGE IDENTIFIER	M
M		0065	Message type 対象メッセージのUNH.S009.e0065「メッセージ・タイプ」	M an..6
M		0052	Message version number 対象メッセージのUNH.S009.e0052「メッセージ・バージョン」	M an..3
M		0054	Message release number 対象メッセージのUNH.S009.e0054「メッセージ・リリース」	M an..3
M		0051	Controlling agency 対象メッセージのUNH.S009e.0051「メッセージ・管理機関」	M an..2
O		0057	Association assigned code 対象メッセージのUNH.S009.e0057「業界指定コード」	C an..6
M	0083		ACTION, CODED 4 This level and all lower levels rejected 対象メッセージに文法エラーあり。エラーの詳細はSG2に記述する。 8 Interchange received 対象メッセージに文法エラーなし。 この場合、SG2は使用しない。	M an..3
X	0085		SYNTAX ERROR, CODED	C an..3
X	0013		SERVICE SEGMENT TAG, CODED	C a3
X	S011		DATA ELEMENT IDENTIFICATION	C
X		0098	Erroneous data element position in segment	M n..3
X		0104	Erroneous component data element position	C n..3

Segment: **Segment Group 2** O (1/999)
Position: 0050
Usage: Conditional
Purpose:
Comments: エラーの詳細情報(セグメント番号、エレメント番号、エラー・コード)を設定するセグメント・グループ
Notes:

Segments and Segment Groups

Usage	Segment	Name	Attributes
M	UCS	Segment Error Indication	M 1
O	UCD	Data element error indication	C 99

Segment: **UCS** Segment Error Indication M (1/1)
Position: 0060
Group: Segment Group 2
Level: 2
Usage: Mandatory
Purpose: To identify either a segment containing an error or a missing segment,
and to identify any error related to the complete segment.
Comments: エラーのあるセグメントの位置を設定する
Examples: UCS+5'

Data Elements

Usage	D-Elm	C-Elm	Name	Attributes
M	0096		SEGMENT POSITION IN MESSAGE 対象メッセージのセグメントの番号(セグメントを最初から数えた番号) エラーのある位置。	M n..6
O	0085		SYNTAX ERROR, CODED エラー・コード (7章 e0085シンタックス・エラー・コード表参照)	C an..3

Segment: **UCD** Data element error indication **O** (1/99)
Position: 0070
Group: Segment Group 2
Level: 3
Usage: Conditional
Purpose: To identify an erroneous simple, composite or component data element, and to identify the nature of the error.
Comments: エラー・コードとデータ・エレメントの位置番号を設定する
Examples: UCD+12+1'

Data Elements

Usage	D-Elm	C-Elm	Name	Attributes
M	0085		SYNTAX ERROR, CODED エラー・コード (7章 e0085シンタックス・エラー・コード表参照)	M an..3
M	S011		DATA ELEMENT IDENTIFICATION	M
M		0098	Erroneous data element position in segment セグメント内のデータ・エレメントの位置番号 注)	M n..3
O		0104	Erroneous component data element position データ・エレメント内のコンポーネント・データ・エレメントの位置番号 注)	C n..3

注) エレメントの位置を次のように表記する。

独立エレメントの場合：e0098 のみに位置番号を入れる。

複合エレメントの場合：e0098 にデータ・エレメントの位置番号

e0104 にコンポーネント・データ・エレメントの位置番号を設定する。

例えば本ページ掲載の UCD セグメントの各エレメント位置は次のように表記される。

e0085 の位置は、 1

S011.e0098 の位置は、 2 : 1

S011.e0104 の位置は、 2 : 2

Segment: **UNT** Message trailer M (1/1)
Position: 0150
Group:
Level: 0
Usage: Mandatory
Purpose: To end and check the completeness of a message.
Comments: メッセージ・トレーラー
Examples: UNT+4+XXX'

Data Elements

Usage	D-Elm	C-Elm	Name	Attributes
M	0074		NUMBER OF SEGMENTS IN A MESSAGE UNHからUNTまでのセグメント数	M n..6
M	0062		MESSAGE REFERENCE NUMBER UNH.e0062と同じもの	M an..14

5. 記述例

以下に基本的な CONTRL メッセージ記述例を示す。

(表 5-1)

セグメント	解説
UNH+XXX+CONTRL:D:3:UN:GD0000'	XXX-ユニーク番号 CONTRL-メッセージ・タイプ D-バージョン番号 3-リビジョン番号
UCI+REF01+SDR:QLF+RCP:QLF+7'	対象メッセージ UNB 情報 SDR-発信者 RCP-受信者 7-対象メッセージを受領したことを示すコード
UCM+MSG REF+DESADV:D:07A:UN: GD0000+4'	対象メッセージの UNH 情報 MSG REF-対象メッセージの「メッセージ参照番号」 DESADV-対象メッセージのタイプ 07A-対象メッセージのリリース番号 4-対象メッセージにエラーがあることを示すコード
UCS+5'	5-対象メッセージの第 5 セグメント
UCD+12+1'	12-INVALID VALUE を示すエラーコード 1-セグメントのポジション 1 を示す
UNT+6+XXX'	メッセージ・トレーラー 6-UNH~UNT 間 (両端含) のセグメント数 XXX-ユニーク番号 (UNH と同じ)

6. 交換用サービス・セグメント

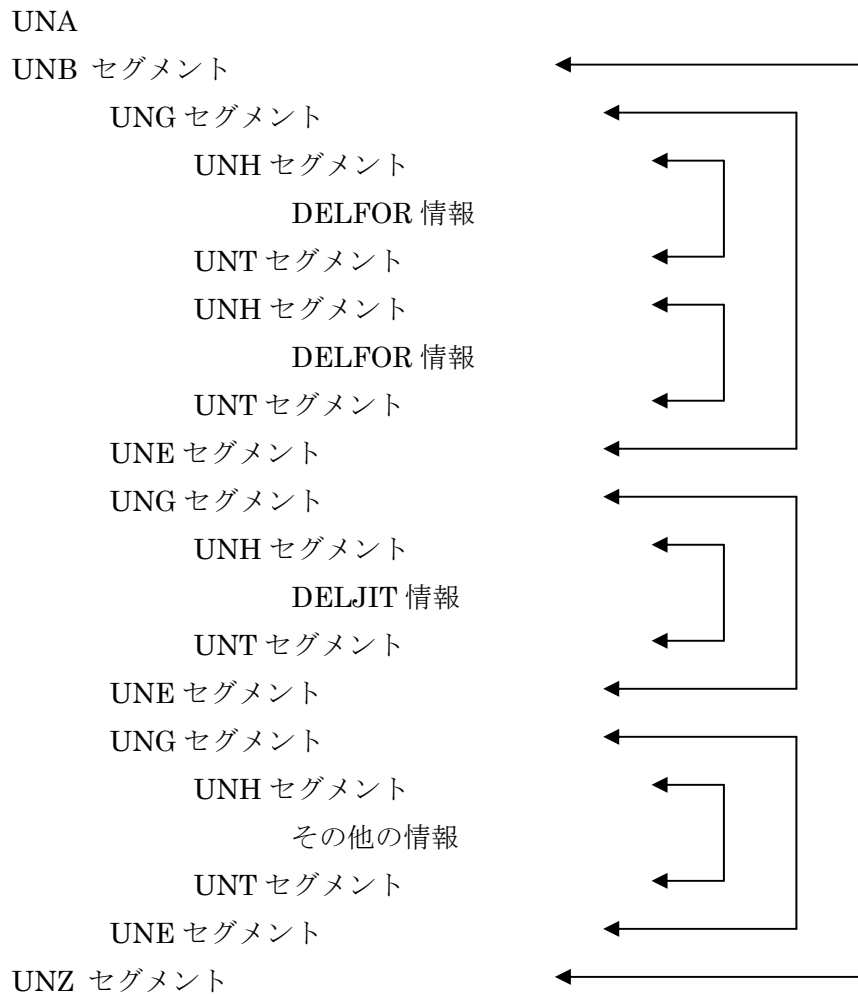
EDIFACT によるメッセージの交換は、いくつかのメッセージ (DELFOR, DELJIT,...) を、メッセージ交換サービス・セグメントで束ねることにより行われる。

サービス・セグメントは UNB-UNZ、UNG-UNE があるが、通常は、UNB-UNZ のみを使ってメッセージ交換が行われる。その包含関係を、図 6-1 に示す。

UNA はメッセージ・コントロール文字を規定するサービス・ストリング・アドバイスであり、デフォルトで決められている文字を変更する場合に、すべてのメッセージに先立って指定する。ただし、JAMA・JAPIA では UNA の使用は推奨しない。

メッセージ交換コントロールの包含関係

(図 6-1)



6.1 サービス・セグメント概要

UNB-UNZ :メッセージ交換用セグメント(ヘッダー、トレーラ)

このサービス・セグメントは、郵便の封筒にあたるセグメントであり、メッセージ交換の際には、必ず使用しなければならない。

このセグメントには、ユニークに識別するための番号と、発信元および受信先を示すコードが記述される。

UNG-UNE :機能グループ同封用セグメント(ヘッダー、トレーラ)

同一のメッセージ種を束ねるためのサービス・セグメント。UNG と UNE の間には、複数の同じメッセージ種が入れられる。使用は任意である。

6.2 UNA

UNA :メッセージ・コントロール文字を規定するサービス・ストリング・アドバイスセグメント内の区切り等を示す記号を定義する。
デフォルトとして、以下のように決められている。

UNA: + . ? _ ' _

第 1 文字(:) — コンポーネント・データ・エレメントの区切りを示す。

第 2 文字(+) — データ・エレメントの区切りを示す。

第 3 文字(.) — 小数点を示す。

第 4 文字(?) — UNA で決められた記号を別の意味で使用するときに使う。

第 5 文字(スペース) — 将来に備えての空き場所。

第 6 文字(') — セグメントの終了を示す。

なお、UNA を使用する場合は、6文字すべてを定義しなければならない。

7. e0085 シンタックス・エラー・コード表

(表 7-1)

エラー・コード	内容
2	受信者は、対象メッセージのシンタックス・バージョンやレベルをサポートしていない。
7	受信相手が異なる。
1 2	データが、仕様に従っていない。
1 3	必須データがない。
1 4	データの値が、記述された位置では、有効でない。
1 5	受信したデータの使い方が、受信者の仕様にはない。
1 6	データの構成要素が、仕様より多すぎる。
1 7	対象メッセージを受け取る約束（契約）がない。
1 8	内容不明のエラー。
1 9	UNA で定義された小数記号が異常か、使われた小数記号が UNA にない。
2 0	UNA で定義されたサービス記号が異常。
2 1	UNB で示されているシンタックス・レベルで使用しない記号がある。
2 2	UNA で定義されていないサービス記号か、UNB で示されているシンタックス・レベルで使用していないサービス記号がある。
2 3	送信者不明。
2 4	古い仕様のメッセージ。
2 5	テスト・インディケータが使用できない。
2 6	同じメッセージが送られた。古いメッセージは消去する。
2 7	機密機能は使えない。
2 8	UNB/UNG/UNH と UNZ/UNE/UNT の対応がとれない。
2 9	UNZ/UNE/UNT で示されるカウント数が、実際の数と合わない。
3 0	機能グループと個別のメッセージが混在している。
3 1	1つの機能グループに、異なるメッセージが混在している。
3 2	伝送データに、機能グループがない。または、機能グループにメッセージがない。
3 3	メッセージまたは機能グループ間で、不自然なセグメントやデータ・エレメントがある。
3 4	仕様のない入れ子構造がある。
3 5	セグメントの繰り返し数が多すぎる。
3 6	セグメント・グループの繰り返し数が多すぎる。
3 7	英字のデータ内に数字がある。または、数字のデータ内に、英字がある。
3 8	小数記号の前に、数字がない。
3 9	データの長さが、長すぎる。
4 0	データの長さが、短すぎる。
4 1	ネットワーク上の恒久的なエラー。同じパラメータを使うと意味がない。
4 2	ネットワーク上の一時的なエラー。
4 3	受信者が不明。

CONTRL V1.02 (JAMAEIE057) からの変化点

No.	変更内容	Pos.	Seg	Element	V1.02 (JAMAEIE057)	V2.01 (JAMAEIE106)	状況	備考
1	地域コード (JAMA01) の変更	0010	UNH	S009. e0057	JAMA01	GD0000		

EDIFACT標準化検討委員

一般社団法人 日本自動車工業会

メッセージWG委員

鏡原 隆司	標準分科会／メッセージWG	主査(ホンダ)
鈴木 勝治	標準分科会／メッセージWG	委員(いすゞ)
大亀 衛	標準分科会／メッセージWG	委員(川崎重工)
土屋 雅美	標準分科会／メッセージWG	委員(スズキ)
寺本 和史	標準分科会／メッセージWG	委員(ダイハツ)
塩澤 敬和	標準分科会／メッセージWG	委員(トヨタ)
平居 義幸	標準分科会／メッセージWG	委員(日産)
横倉 考俊	標準分科会／メッセージWG	委員(日野)
本間 規之	標準分科会／メッセージWG	委員(スバルシステムサービス)
河田 美智男	標準分科会／メッセージWG	委員(マツダ)
森岡 孝人	標準分科会／メッセージWG	委員(三菱)
中村 晃一	標準分科会／メッセージWG	委員(ヤマハ)
本間 直人	標準分科会／メッセージWG	委員(UDトラックス)

連絡先:一般社団法人 日本自動車工業会 総務統括部 電子情報システム担当

〒105-0012 東京都港区芝大門一丁目1番30号 日本自動車会館

TEL:03-5405-6130

FAX:03-5405-6136

Copyright:一般社団法人 日本自動車工業会